

核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会会報
(0764) 42-8000

核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会会報

会員
145名

結成総会ひらく

核戦争の危機なくなるまで努力を



開会の辞を述べられる佐々学先生
(7/16, 名鉄トヤマホテルにて)

結成にあたって、六月に巧の六氏が呼びかけ人となり「設立発起人」を募った。佐々学、片山喬、中瀬真一、品川俊男、深山正之、村田一とともに、十五人の医薬大教代表に佐々学先生

兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会の結成総会が七月十六日に開催されました。総会には、四三名が参加、会則、活動計画、役員などが決められました。

核兵器廃絶へ医師として可能な努力を——「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」の結成一〇一名が「発起人」を承諾。七月五日には、十八名の参加で「設立発起人の集い」が開催され、結成総会への提案事項などが協議されました。

結成総会はマスコミ各社が取材に来るなど、社会的にも注目され、名鉄トヤマホテルで開かれました。

開会の辞で、佐々学先生は、「この狭い地球で人間同志が武器で殺しあい、ましてや核兵器を使うなどと考えているということは、全く愚かしいこと。この会は、思想信条を超えて純粹な気持ちから結成された。また、県内の医師・医学者の交流の場となれば」と述べられました。

議長に品川俊男先生を選び、経過報告を中瀬真一先

授や公的病院院長、医科・歯科の開業医、勤務医など一〇一名が「発起人」を承諾。七月五日には、十八名の参加で「設立発起人の集い」が開催され、結成総会への提案事項などが協議されました。

結成総会はマスコミ各社が取材に来るなど、社会的にも注目され、名鉄トヤマホテルで開かれました。

開会の辞で、佐々学先生は、「この狭い地球で人間同志が武器で殺しあい、ましてや核兵器を使うなどと考えているということは、全く愚かしいこと。この会は、思想信条を超えて純粹な気持ちから結成された。また、県内の医師・医学者の交流の場となれば」と述べられました。

議事では、高野昇治先生が会則案、田中悌夫先生が活動計画案、小熊清史先生が予算案をそれぞれ提案、採択しました。

また、役員の選出は、片山喬先生が提案、十六人の世話を承認。なお、初代・世話人代表には、佐々学先生が選出されました。

最後に滝邦彦先生が提案された「総会宣言」を採択しました。

終了後、「核兵器をなくす運動と医師の役割」と題して記念講演会が開催されました。自らも被爆者で、その後医師として、核兵器廃絶の運動に尽力される、講師の肥田先生の被爆体験を混えた説得力ある話に、参加者は一層、核兵器がなくなるまで医師・医学者が率先して努力を:との思いを強くされたようでした。

生がされた後、核戦争防止石川医師の会代表世話人の登谷栄作先生が来賓挨拶をされました。太田真治先生が各県の同主旨の会、県内署名人からの祝電・メッセージが紹介。

結成総会で選出された

世話人の方々

(順不同・敬称略)

世話人代表

佐々 学

(前富山医薬大学長、
東京大学名譽教授)

世話人

片山 喬

(富山医薬大医学部長)

世話人

喬

(富山医薬大医学部長)

世話人

喬

(富山医薬大医学部長)

世話人

喬

(富山医薬大医学部長)

山本 恵一

(富山医薬大教授)

高野 昇治

(県保険医協会会长)

深山 正之

(元県歯科医師会会长)

第一回 世話人会

小熊 清史
(小熊歯科医院院長)

太田 真治
(おおたファミリー
歯科院長)

横井 昭平
(横井産婦人科医院院長)

田中 悅夫
(富山の医療と福祉
をよくする会会長)

黒部 信也
(富山協立病院院長)

梅崎 伸
(梅崎小児科医院院長)

多田 秀一
(多田眼科医院院長)

滝 邦彦
(県放射線医学会会長)

品川 俊男
(上市厚生病院院長)

中瀬 真一
(県の被爆者医療担当医)

村田 巧
(前県小児科医学会会長)

片山 喬
(富山医薬大医学部長)

高野 昇治
(富山医薬大教授)

山本 恵一
(元県歯科医師会会长)

高野 昇治
(横井産婦人科医院院長)

横井 昭平
(富山の医療と福祉
をよくする会会長)

田中 悅夫
(富山の医療と福祉
をよくする会会長)

黒部 信也
(富山協立病院院長)

梅崎 伸
(梅崎小児科医院院長)



七月十六日の総会終了後、

名鉄トヤマホテルにて、第
一回世話人会が開催されま
した。十三名の世話人の出
席で、主な協議内容は次の
とおりです。

①申しあわせ事項として、
日常的に事業を推進する
ため、常任世話人会を設
置する。(常任世話人に
は、片山、中瀬、品川、
高野、田中、黒部、小熊
の各先生とする。)

②当面の活動として、

☆会報第一号を発行する。

☆IPPNW第九回世界

大会(十月七日～十日、
広島市)に代表を派遣す
る。人選は、常任世話人
会等で行なう。

☆十一月頃、IPPNW
世界大会の「報告会」を

開催する。(予定)

佐々 学先生の辭

今まで県内の医師・

医学者同志が意見の交流・親睦

には、私は一切かかわりたくない。

勿論、そういうことを考えている

ことは愚かしく、嘆かわしいこと

です。いま、人間同志が殺しあ

い、ましてや核兵器を使うなど

という場合ではない。大切なこ

とは、いかに地球の環境を守る

がお入りになつてもいいし、私の

いの一端を述べ挨拶

と致します。

この狭い地球上で、

私は、私は一切かかわりたくない。

勿論、そういうことを考えている

ことは愚かしく、嘆かわしいこと

です。いま、人間同志が殺しあ

い、ましてや核兵器を使うなど

という場合ではない。大切なこ

とは、いかに地球の環境を守る

がお入りになつてもいいし、私の

いの一端を述べ挨拶

と致します。

この狭い地球上で、

私は、私は一切かかわりたくない。

勿論、そういうことを考えている

ことは愚かしく、嘆かわしいこと

です。いま、人間同志が殺しあ

い、ましてや核兵器を使うなど

という場合ではない。大切なこ

とは、いかに地球の環境を守る

がお入りになつてもいいし、私の

初年度

活動計画

兵器全面禁止・廃絶のための国際署名に取組む。

④「第九回核戦争防止国際医師世界大会」代表派遣
十月七日～十日まで広島で開催される「I.P.P.N.W.第九回世界大会」に複数の代表派遣をめざす。

①核兵器廃絶への世論形成
講演会・上映会等を開催し、医師・医学者及び広く県民への世論形成に努める。

②核兵器廃絶署名の取組み
世界一五一カ国で取り組まれ、日本では三四二五万人（富山県では十九万人）が署名している核

③自治体への「非核平和都市宣言」の働きかけ
全国で一三八五自治体（四一%の自治体、総人口の六五%に相当）、富山県では高岡、魚津、滑川、黒部、入善、小杉、婦中、大島、大門の九自治体が「非核平和都市宣言」をしている。

④会員增加に努める。
当会の社会的役割並びに財政基盤の確立のため、会員増加に努める。

⑤会報を発行する。
この年にあたって、私たちは、唯一の被爆国の人々、医師・医学者として、生命と健康を守る職業人として、この核兵器廃絶の課題に対して、強い関心をもつべきでしょう。いま、私たち医師・医学者がなすべきことは、人類史上最大の病——核戦争の防止、核兵器の廃絶のために思想信条の違いを超えて、ヒューマニズムに立脚して、努力すべきだと考えます。私たちは、日本の、そして世界の平和を愛する人々、医師・医学者とともに、核兵器廃絶と核戦争の危機がなくなるまで、可能な努力を始めることを、ここに宣言します。

た原爆の百万発分にあたる核爆弾が世界各地に配備され、どこかで核戦争が始まれば人類の絶滅は避けられない状況にある。この世に核兵器があるかぎり、核戦争の危険はいつも存在し、私たちはたえず人類破壊の危機にさらされている。

町は、人類にとって死活的な緊急課題として核兵器全面禁止・廃絶を世界に強く訴えるとともに、非核三原則を守り、世界と日本、郷土の平和建設に努力することを宣言する。

「核兵器は作らず、持たず、持ち込ませず」の非核三原則を将来にわたり厳守する。

さを子々孫々に伝え、平和を守る行政を行なう。

三たびにわたって原水爆の惨禍をうけた私たち日本国民は、世界の誰よりもその恐ろしさを知つており、その悲劇が繰り返されないことを強く願っている。

世界で唯一の被爆国として広島、長崎の惨禍を再び繰り返さない立場から大島

二、大島町は、国是である三、大島町は、戦争の悲惨



総会宣言

資料

大島町議会 平和都市宣言 (昭和六三年八月一九日)

大島町議会
平和都市宣言
(昭和六三年八月一九日)

た原爆の百万発分にあたる核爆弾が世界各地に配備され、どこかで核戦争が始まれば人類の絶滅は避けられない状況にある。この世に核兵器があるかぎり、核戦争の危険はいつも存在し、私たちはたえず人類破壊の危機にさらされている。

町は、人類にとって死活的な緊急課題として核兵器全面禁止・廃絶を世界に強く訴えるとともに、非核三原則を守り、世界と日本、郷土の平和建設に努力することを宣言する。

「核兵器は作らず、持たず、持ち込ませず」の非核三原則を将来にわたり厳守する。

結成総会記念講演より(抜粋)



肥田先生

結成総会記念講演「核兵器をなくす運動と医師の役割」(講師・肥田舜太郎先生)のうち、紙面の関係上、医師の役割について述べられた部分を中心に、その一部を紹介します。

実は大きな政治問題が介入したのです。

原爆を投下した後、トル

放射能被害を徹底して隠蔽

これだけ残虐な兵器が戦

後四十四年にわたって、特

にアメリカ、ソビエトが造

り続けることができたのは、

本来なら不思議な話なんで

す。あの直後に、世界中の

人が広島、長崎の事実を知

れば、当然、もっと早く反

核運動が起つて、核兵器

禁止がとつくの昔にできていた筈なんですね。それがなされなかつたところに、

核兵器はなくすことが可能

残念ながらまだ人類には、

だから世界で初めて何十万という放射線の被害者が充

満していた一番大事な時期に、人類の後々の教訓のために、臨床症状を明らかにし治療法まで考える、たつた一つのチャンスがなくなつた。

だから私は、我々が力を

合わせれば、なくせる可能

性があると思います。核兵

器廃絶というのは、一番どっかかりやすく、多くの人が

賛成できる問題です。

私たち被爆者が外国へ行つて、広島・長崎の被爆者がどのように死んでいったか、今も死につつあるかを話すだけで、皆、核兵器はなくさねば…と理解してくれます。

原爆投下の本当の理由

さて、アメリカが核兵器

を使用した理由ですが、それは二つです。一つは戦後のソ連との関係で、核戦略

を有利にするということ。

これは専門家の共通意見で、

アメリカも今、否定してい

ません。もう一つは、日本

人を使って、放射能の人体

実験であった。どういう影

響があるか、調べること

が目的だったんです。このことの証拠は沢山あります。

つまりアメリカは、あの原子弹の破壊力のもの凄さ、あの非常に高度な熱で焼きつくすという、この二つは隠しようがなかつた。

しかし、放射能被害を徹底的に隠蔽し続けたのですね。

だから私は、我々が力を

合わせれば、なくせる可能

性があると思います。核兵

器廃絶というのは、一番どっかかりやすく、多くの人が

すべての戦争をとめる力はないと思います。ただ、戦争に全く縁もゆかりもない人間が、巻き添えを食つて死ぬという、核戦争は、核兵器をなくすだけで防げる訳けです。

それは、広島、長崎の被爆者がわからぬ形でどんどん死んでいく事実のなかで、わかつてきました。被爆者は、明らかに癌の発病率が高い。そして、白血病…。

うレントゲンで癌を発病させる危険があることがわかったのは、つい二〇年ほど前のことです。

それは、広島、長崎の被爆者がわからぬ形でどんどん死んでいく事実のなかで、わかつてきました。被爆者は、明らかに癌の発

病率が高い。そして、白血病…。

皆さん、放射線の被害の恐ろしさを、素人にもわかる形で話して頂ければ…。

医師が「核兵器は、このようないい被爆を起こすのだよ」と一言おっしゃるだけで、誰が言うより早く国民の中に、核兵器の恐ろしさは浸透していくわけです。

これは別にどこかへ行って演説するわけではなく、皆さんの待合室で、診察室でお話をなつて頂ければ、それでいいわけです。

放射線の被害は、専門家である皆さんが少しお読みになれば、素人が読むよりずっとよくわかるわけです。

どうか、市民の皆さんに話をして頂くことをお願いしたいと思うのです。



IPPNW第9回世界大会

広島市で開催

=10/7~10=

富山からも参加へ

核戦争防止国際医師会議（IPPNW）の第九回世界大会が、十月七日より十日までの四日間、広島市で開催されます。世界唯一の被爆国で開催される大会への世界の医師の関心は高く、六十カ国、二八〇〇名の参加が予定されています。

IPPNWは、核戦争防止のための知識の啓発及び普及、活動を行なう医師組織の国際的連合体で、東西の六十一カ国、二〇万人が加盟しています。主義主張を超えた組織で、一九八五年にノーベル平和賞を受賞しました。

大会日程の概略は、別表のとおりですが、十月七日の開会式では、WHO事務局長の中嶋宏氏（ほか、エフゲニー・チャザフ氏（ソ連保健相）、ウォール・ソインカ氏（ノーベル文学賞受賞者）が予定されています。

医師・医学者の会では、今核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会では、今

第9回核戦争防止国際医師会議世界大会				
	10/7(土)	10/8(日)	10/9(月)	10/10(火)
8:00		礼 拝 式		
9:00			初級及び中級カリキュラム	
10:00		分 科 会	分 科 会	閉会総会
11:00	開会式	ワークショップ	ワークショップ	
12:00				
13:00	昼 食	昼 食	昼 食	
14:00				
15:00	開会総会	地域別ミーティング 病院訪問 観光	初級及び中級カリキュラム	国際評議員会講
16:00			分 科 会	
17:00			ワークショップ	

この世界大会に、「複数の代表派遣をめざす」ことを、世話を会で確認しています。会員の先生の中から、いま参加希望の方を募っています。「会」事務局までお電話下さい。
○七六四一四一一八〇〇〇

IPPNWとは、International Physicians for the Prevention Nuclear Warの略で、世界中の医師たちが集まって、核戦争を防止するための活動を行なっている。

この運動は、一九八一年

*IPPNW運動の 四つの合意点

①IPPNWは、その焦点を核戦争に限定する。

②核戦争防止にあたって、IPPNWの医師たちは生命を守り、健康を維持するという職業的使命から行動する。

③IPPNWは東西両陣営からの医師たちを包含し、世界中に核戦争の医学的結果についての情報を広める。

④IPPNWは、核戦争禁止に向けての各国民政府の動きは支持するが、特定の国の、いかなる政策にも関与しない。

に三人の米国人医師と三人のソ連人医師の間で始まり、今では世界六十一カ国二〇万人の会員を擁する組織になっている。

第一回世界大会は、ワシントンで開かれ、七〇人の医師が集まつた。一九八五年に、ノーベル平和賞を受賞した。現在、米国のラウンド氏とソ連のクレジン氏が二人で会長をしている。

核兵器をなくすため 医師・医学者が率先して…

「設立発起人の集い」での発言



設立発起人の集い (7/5, 名鉄トヤマホテル)

七月五日に開催された「設立発起人の集い」では、参加者から核兵器問題に対する思いと「会」への期待が述べられました。全員の発言要旨を紹介します。
(発言順)

中瀬真一先生

これからは、医師も社会との関わりを持つていかねばならないと常々考えていました。純真な気持ちから核兵器の廃絶を求めて社会にむかって発言することは、我々医師として大変意義がある

深山正之先生

戦争体験者として、患者の生命と健康を守る医療人として、核兵器の廃絶を願うのは、当然である。

「発起人」が多数となり、「呼びかけ人」の一人として、大変嬉しく思っている。

山本恵一先生

佐々先生や片山先生が尽

力されているのに、ぐずぐ

ずしてはいけない、との

想いでかけつけた。七月十

五日の福井の空襲で、近所

の人の死体をかきわけ逃げ

してきたといわれている。

(いいことでないが……) 私たちは、それ(戦争)に立ち向かいながら、頑張る必要があるのでは。この会が人類の未来を考える会になれば、と願っている。

小西善磨先生

私自身、レントゲン治療

を長期間した結果、放射線

障害に悩んでいる。白血球

が減り、片手が不自由、爪

がなくなるなど、その怖さ

は、身を持って体験している。兵器に使うなどもつて

ことと思う。僭越ながら「呼びかけ人」の一人となつた。予想を上回る「発起人」の承諾者に驚き、喜んでいた。

「思想を超えて行動を……」と思つていたが、その場がなかつた。今度富山で「会」が結成されると聞いて、「どうしても」との思いで来た。八三年にスイスへ行ったとき、病院がまるごと避難できる「地下壕」がある

と聞いた。何とムダなことと思つた。

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

いる。しかし、イデオロギー

をぶつけあうことには、に

がにがしく思つていて。純

粹な医師としての考え方から

の「会」に期待している。

小さいかもしねないが、何かの力になれば……と思つ

ている。

梅崎伸先生

広島の原爆記念館には、

何回となくいつたがその都

度、原爆の残酷さを改めて

感じた。核兵器廃絶は当然のこととして、私も願つて

太田真治先生

「戦争を知らない世代」
——三十三歳の歯科医。肥

田先生が、被爆体験を生々
しく語られた講演テープを

聞いて、「核兵器はなくさ
ねば……」との思いを強めた。

私も顔をラジウムで治療し
た結果、ケロイドが残って
いる。人殺しの道具として
の核兵器は、是非廃絶すべ
きと思う。

林 吾郎先生

核兵器廃絶は、みんなの
思いだ。地球を守るために
は、この気持ちがみんなの
力にならねば……と思う。
「会」に期待する。

田中悌夫先生

三つの誕生日について述
べたい。ひとつは、いわゆ
る「マンハッタン計画」に
より原子弹の開発がすす
められ、世界最初の原子弹
の実験が行なわれたのが

一九四五年七月十六日だ。
私の誕生日が一九三一年七
月十六日。そして、富山で
この「会」が結成されるの
が、一九八九年七月十六日
である。これは、偶然に日

が同じというだけでなく、
何かの因縁を感じる。「会」
の発展を願う。

黒部信也先生

核兵器廃絶の問題では、
私なりに若いころから努力
してきました。私の病院でも最
近、ようやく若い職員が関
心を持つようになり、運動
にも参加しつつあり喜んで
いる。「会」が大きく発展
することを願う。

撰津浩二先生

小学校五年で終戦を迎
えました。また従兄弟を広島と長
崎でそれぞれ亡くした。原
爆の悲惨さは、小さいころ
から身にしみている。平和

な社会を将来にわたって続
けていく責任が我々にある。
核兵器廃絶の問題では、
私なりに若いころから努力
してきました。私の病院でも最
近、ようやく若い職員が関
心を持つようになり、運動
にも参加しつつあり喜んで
いる。「会」が大きく発展
することを願う。

団塊の世代、「呼びかけ人」
の方やその同世代が、戦争
や原爆のことなどを次の世代に
伝えねばならないと思う。
あと十年遅れると伝えられ
なくなる。いま「会」をつ
くる意義がここにある。

村田 巧先生

心待ちにしていた「会」

である。沢山の「発起人」

に有名な小児科医であるア

メリカのスポーツ博士は、

核兵器廃絶の運動に率先し

て参加している。日本の医

師は、これまで今一つかか

わりが弱い感じを持ってい

る。被爆国の医師が率先し

てすすめなくては、おかし

いと思っていた。結成の運

びとなり嬉しく思う。

（上市厚生病院）

すことは、医師としての最
も重要な役割である。県下
すべての先生が参加できる
ような「会」にしたい。

~~~~ 入会ハガキの  
メッセージから ~~~~

◆核のみならず軍備が不必  
要な世界がくるよう頑張り  
ましょ。

（医薬大）

◆眞に核兵器廃絶を訴える  
ものであれば、本当に素晴  
らしい。心から応援します。

（市厚生病院）

◆人の生命を尊ぶのが医師  
の使命。それを破壊する最  
大の凶器、一瞬に全世界の  
命を奪う核兵器は、いか  
なる理由があつても廃止す  
べきです。（黒部市民病院）

◆眞理は一つ、戦争は絶対  
悪。（富山市・内科）

◆核兵器が世界中に存在し  
てることを非常に憂いて  
いた。微力だが何か私でも  
協力でき嬉しいと思う。

品川俊男先生

「呼びかけ人」の一人に

加えて戴いて光榮に思つ

ている。昭和三十九年、富

山赤十字病院に入局、まも

り原爆医療に関わった。

富山県の被爆者は一三九名、

「健康手当」受給者は八十

二名である。成人病の死亡

者は二〇万人（一年で）に

はならない。原爆は一発で

数十万人をも殺す。人の生

命を助けるのが医師のつと

めなら、核兵器廃絶をなく

す。

（砺波総合病院）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

（

）

## 会則

3、

他都道府県の同趣旨の会との連携、  
「核戦争防止国際医師会議」(I.P.P.N.W.)との協力。

持たない、持ち込みもしない、非核三原則を国是とする日本こそ、世界唯一の核被爆国の国民である我々日本人こそ、そして人の命を守ることをその使命とし、命のはかなさを、核兵器の恐ろしさを誰よりもよく知っている我々医師・医学者が誰よりも率先して核兵器廃絶をめざさねばならない。

この理の当然のことが、誰が考へてもあたりまえのことが、余りにもあたりまえであるがために、かえつて常識ある人々の口を封じ、政争の具となってしまった。過ちをあらたむるにはばかりことなかれ。今こそ我々は勇気をもって前進しなければならないと考え富山医師・医学者の会を結成したところ、さいわい佐々医科大学長を世話人代表とする一四五人の勇気と良識ある方々のご参加を得たことは会員の一人としてたいへん喜ばしく、大いに勇気をもたらすました。派手でなくともよい。地道な活動を怠長く、核戦争の危機がなくなるまで続けたい。

(S)

# 年会費の納入 「積立募金」協力 のお願い

八月初旬に入会のご連絡をいただいた先生方に、年会費(五〇〇円)納入と併せて、「設立のための募金」(一口・五〇〇円)協力のお願いを致しました。大多数の先生から会費の納入とともに募金の協力をいただいています。心から感謝いたします。

まだ納入頂いていない先生は、同封の「振替用紙」にて納入下さるようお願い致します。

## 核言集

### 書籍案内

なぜこうなったのか?  
人類の運命を左右する74の言葉(発言)を収録。  
\*好評あっせん中!

◆大月書店刊(1,340円)

### 編集後記

ふるさとの街やかれ身よりの骨うめし焼土に今は白い花咲くああ許すまじ原爆を三度許すまじ原爆をわれらの街に

(浅田石二)

核兵器廃絶は日本人の悲願であり、全人類の願いであります。核を製造しない、

第1条 本会は「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」と称し、事務所を富山市内におく。

第2条 本会は、人間の健康と生命を守る医師のヒューマニズムにもとづき、核兵器廃絶と核戦争防止のために、医師として可能な限り努力する。

第3条 本会は、核兵器の廃絶と核戦争の防止を願う、医師・歯科医師・医学者によって構成する。

第4条 本会は、会の自主性を堅持し、他のいかなる団体にも拘束されない。

第5条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1、核兵器廃絶・核戦争防止のための世論を高める事業。

2、核兵器完全禁止署名への協力。

第6条 本会の事業をすすめるため、若干名の世話人をおく。世話人代表は世話人会の互選とする。また、顧問をおくことができる。

第7条 世話人及び顧問は、総会で選出する。

第8条 世話人及び顧問の任期は二年とし、再任を妨げない。

第9条 総会は少なくとも二年に一回は開催する。

第10条 本会は、年会費、寄付金によって運営される。年会費は、五〇〇円とする。

第11条 本会則の変更は総会で行なう。

持たない、持ち込みもしない、非核三原則を国是とする日本こそ、世界唯一の核被爆国の国民である我々日本人こそ、そして人の命を守ることをその使命とし、命のはかなさを、核兵器の恐ろしさを誰よりもよく知っている我々医師・医学者が誰よりも率先して核兵器廃絶をめざさねばならない。この理の当然のことが、誰が考へてもあたりまえのことが、余りにもあたりまえであるがために、かえつて常識ある人々の口を封じ、政争の具となってしまった。過ちをあらたむるにはばかりことなかれ。今こそ我々は勇気をもって前進しなければならないと考え富山医師・医学者の会を結成したところ、さいわい佐々医科大学長を世話人代表とする一四五人の勇気と良識ある方々のご参加を得たことは会員の一人としてたいへん喜ばしく、大いに勇気をもたらすました。派手でなくともよい。地道な活動を怠長く、核戦争の危機がなくなるまで続けたい。